



アシジ総集会文書

福音の喜びをたずさえて辺境へと出かけていく
現代において兄弟であり、より小さい者であること

- 1) 総括文書
- 2) 決定事項
- 3) 教皇謁見

目次

総長のプレゼンテーション	5
1. 2015年アシジ総集会総括文書	6
兄弟たちの声に耳を傾けて	6
神のみ言葉に耳を傾けて	7
バビロン捕囚の時	9
盲人バルティマイのように	12
アブラハムとサラのように	15
2. 付録1 2015年総集会決定事項	19
3. 付録2 教皇謁見	24

総長のプレゼンテーション

親愛なる兄弟の皆さま、

この文書は、聖霊降臨の祝日ごろにアシジで開かれた総集会の結果です。言うまでもなく、総集会での体験は紙に書かれたものとは比べ物にならないほど豊かなものでした。ですが、これらの文書を通して、私どもが体験した本質的な要素を一部なりとも皆さまと分かち合えるのではないかと考えております。このようにして、似たような体験を、本会のすべての兄弟にとって、おそらくはもっと素晴らしい体験を、始めたいと願っております。

文書は全部で三つあります。総括文書、総集会による今後6年間のための決定事項、そして、教皇フランシスコの謁見の際の文書（総長による挨拶と教皇のお言葉）です。総括文書が総集会で分かち合った体験を出発点として、その間に生まれた全体的な省察を明記してあるのに対し、決定事項は、もっと実務的で実践的なスタイルをとっています。最後に、教皇謁見の際の文書は会全体にとって教皇との「贅沢な」ひとときを感謝をこめて記録したものです。

文章を書くに当たっては、言葉を連ねるのではなく、言うべきことに然るべき重点を置くように自制する必要があると思います、なるべく短く、限られた数の決定事項を提示しようと努めました。特に、総括文書に関しては、総集会で体験したことを多々参照しながら、物語形式をとったことにご注目ください。この文書から、私たちを取り巻く状況を、聖書の言葉に耳を傾けながら省察することが必要であるとの信念が生まれました。この文書の土台に「聖書的なイメージ」を使ったのは、この固い信念を表現するためです。

この文書の表題となっている「福音の喜びをたずさえて辺境へと出かけていく」は、一つの根本的な選択を表しています。つまり、現代の福音を、これまでになく必要とする人々に、福音から迸る喜びをもって告げ知らせるために、あらゆる境界の外側にまで出かけて行くという選択です。

この文書の副題は「現代において兄弟であり、より小さい者であること」となっていますが、それは、世を巡る私たちの在り方の表現です。自分一人ではなく、兄弟共同体として、強力な手段によってではなく、より小さい者として、私たちが持っている、そして私たち自身がそうである貧しい道具でもって世を巡る在り方です。

この6年の初めにあたり、これらの文書を皆さまに供します。それは、私たち全員が、現代に置いて真の兄弟となりより小さい者となる選択を新たにし、辺境の人々に福音の喜びを身をもって届けるためです。

主が今日も、そしていつも、私たちを同伴してくださいますように。

2015年11月1日、諸聖人の祝日

ローマにて
皆さまの僕にして総長である
兄弟マイケル・A・ペリー、OFM

2015年アジジ総集会総括文書

福音の喜びをたずさえて辺境へと出かけていく

現代において兄弟であり、より小さい者であること

1. アジジから平和と喜びの挨拶を送ります。私たちは、2015年の聖霊降臨祭における総集会を、アジジのポルチウクラにおいて開催しました。今回の総集会には世界中のさまざまな大陸から129名の兄弟たちが集まりました。会場には、兄弟会全体を代表して行う集会のために、とても静かで話しやすい環境が整えられました。総集会において話し合われ確認されたことは、承認を得た決定事項 (mandates) に表明されています。それは参加した管区長とクストス達によって兄弟の皆さんに報告されることになるでしょう。その内容は、兄弟の皆さんすべてに密接にかかわるものです。そして総集会は、この総括文書を通して、何が我々をそのような決議に導いたのか、そしてそれらの決議がどのような重要性をもっているのかということ、皆さんにお伝えしたいと願っています。こうすることによって、兄弟の皆さん、あなたがたすべてが、私たちのこれからの旅路に、新しいエネルギーと、新しい熱意をもつことができようになるためです。この公文書には総括文書の他に付録1として私たちが採決した決定事項、付録2として教皇謁見時の総長の「挨拶」と教皇フランシスコの「お言葉」が含まれています。この付録2を加えたのは、そのときのことを私たちが思い起こすだけでなく（総括文書19-20参照）、「挨拶」の中でふれている私たちの歩みが向かう方向を示し、さらに、私たち小さき兄弟に今教会が期待していることを明らかにしています。

兄弟たちの声に耳を傾けて

2. フランシスコは、総集会を聖霊降臨祭に合わせて開催することを望みました。それは、この祭日が聖霊の恵みだけでなく、シナイ山における契約の律法をも呼び起こすものだからです。モーセが契約の書を取り、それを民に読んで聞かせると、彼らは「主が告げられたことはことごとく行い、また聞き従います」¹と答えました。イスラエルの民は、まずことごとく行うことを約束し、それから聞くことを約束しています。このためユダヤ教の伝統では、イスラエルの民は、まず花の中に小さな実をつけ、それから葉を茂らせるリンゴの木と比べられます。聖書の伝統では、一つの教えを理解するためには、まずそれを実行せよと強調しています。聖書の教えを理解するためには、実践することが必要なのです。さらに、神の智慧は小さき者、貧しい者に示されるからです²。フランシスコはこの伝統に立ち、私たちの会則の冒頭を「小さき兄弟たちの会則と生活は、私たちの主イエス・キリストの聖福音を守り、従順のうちに、何も自分のものとせず、貞潔

¹ Ex 24:7.

² Cf. Mt 11:25..

に生きることである」³という表現で書き始めています。彼が私たちを「主の霊とその聖なる働きをもつ」⁴ことに招いているのは、この聖書の実践的側面をよく理解していたからに他なりません。フランシスコは「人は実践することによって知恵を得る」⁵ことを知っていました。行動は深く聖霊と結ばれており、聖書は、それを読む者がその教えを行動に移すとき、はじめて理解されるのです。人は、愛されることなくして、また愛することなくして、愛の意味を理解することはできません。

3. 今日の私たちの世界は、激しい変化の時代を迎えています。グローバル化に伴う経済活動の進化や、インターネット等のデジタル革命により、情報を瞬時に伝達することも可能になりました。生命倫理の進化は、私たちの自然との係わりを大きく変えようとしています。そして今、職のない青年層の数の増加、国際的に広がる暴力、国外へ逃れていく難民の急激な増加などに見られる新しい貧困の形が生まれています。これらの大きな変化の他にも、気候の変化、森林破壊や生命種の急激な減少といったいくつかの環境面の課題は、すべての国の政治的な懸念事項となっています。これらの問題は、特に貧しい人々に影響をもたらします⁶。私たちは、大きな歴史の転換点に立っているのです。それは、新しい世界が生まれようとしている産みの苦しみの時と言えます。出産に望む女性は、苦しみの中にありますが、子供が生まれると彼女は大きな喜びに包まれることでしょう⁷。
4. このような世界の激しい変化と同じく、私たち兄弟会も、大きな変化の時を迎えています。活気にあふれて、新しく未来を見据えて若い共同体や、新しい召命を生んでいる兄弟共同体は、特に養成担当者の養成の分野を開拓し、現代社会に適応した養成のためのトレーニングセンターを作る必要があります。また他方では、兄弟の大多数が高齢で、彼らの忠誠心や忍耐に深く学ぶ恵みをもつ兄弟共同体も存在しています。このことは、私たちすべての兄弟にとって、希望と励ましのメッセージとなります。

私たちが総集会で話し合い考察した流れに添うように、聖書からの四つのイメージを兄弟の皆さんに提示したいと思います。それは、私たちが今回の総集會を俯瞰しながら理解する助けになることでしょう。

神のみ言葉に耳を傾けて

5. **第一のイメージ**は、総集會の最初の日に紹介されました。それは、湖で嵐を静めるイエスの物語です。

³ RB 1.1.

⁴ RB 10.8

⁵ Cf. AC, 105: “tantum scit homo de scientia, quantum operatur”; cf. also Giles of Assisi, *Dicta* 6.

⁶ Cf. Pope Francis, Encyclical letter, *Laudato Si'*. On Care for Our Common Home, 2015.

⁷ Jn 16:21.

「さて、イエスが舟にお乗りになると、弟子たちも従った。ところが突然、湖に嵐が起り、舟は波に吞まれそうになった。しかし、イエスは眠っておられた。そこで、弟子たちは近寄って、イエスを起こして言った、『主よ、助けてください。わたしたちはおぼれそうです』。イエスは仰せになった、『なぜ恐れるのか。信仰の薄い者たちよ』。それから、起き上がり、風と湖をお叱りになると、大嵐になった。人々は驚いて言った、『いったい、この方はどういう方だろう。風や湖もこの方の言うことを聞くとは』⁸。

6. 私たちは、このような嵐の存在を知っています。そのとき、すべては暗くなり、私たちの命である舟があらゆる方向から浸水し、しかもその間、イエスの姿は見えず、あるいは眠っておられるかのようです。私たちは総集会の最初の数日間、それぞれの管区が吞み込まれそうになっている激しい大波について話し合いました。その大波とは、ある場合には極端な世俗主義や、伝統的な宗教的価値観の弱体化という形となって示されました。またある場合には、それは福音派キリスト教への改宗の増加であり、あるいはごく少数の富裕層と多数を占める貧困層との間の経済的な格差が引き起こす経済危機であり、イスラム教の周辺で起こっている過激な動きという姿をとっていました。それから私たちは、現在多くの管区が兄弟の数的減少に直面していて、結果として私たち自身が宣教し開拓した土地からの撤退を余儀なくされており、更に管区の統廃合などの経験の中で、自分たちのアイデンティティを見失いそうになるという大きな嵐も経験しています。
7. また、さまざまな形の嵐は、それぞれの兄弟共同体においても荒れ狂っています。例えば、兄弟たちが共に「教会の祈り」を行わないとき、必要な修道院会議を行わないとき、個人としても共同体としても神のみ言葉に十分に注意を払って聞くことを怠ったとき、コンピューターの前に座ってばかりで他の兄弟との交わりを避けてしまうようになるとき、私たちの家である兄弟共同体を単なるホテルのように考えてしまうとき荒れ狂うようになります。このようなとき、兄弟共同体を去りたいという誘惑がとても強くなっていきます。しかし、兄弟的生活の中心にいらっしゃるのはキリストであり、兄弟共同体は復活された方の恵みであることを私たちに示してくれるのは、何よりもエウカリストイアであることを思い出しましょう。
8. そして私たちは今、小さき兄弟会の組織運営の中枢を襲った巨大な津波（Tsunami）と向き合わなければなりません。それは、数名の兄弟たちが引き起こし、兄弟会の信頼を損ねることになってしまった財政危機のことです。私たちはこの困難な時に、兄弟フランシスコが、彼自身が様々な困難に直面して学んでいったように、神がどのように働いておられるのかよく見て理解するようにと私たちを招いていることを確信しています。
9. 使徒パウロのローマの信徒への手紙が、私たちの体験している困難とどう向かい合うべきなのか、教えてくれるでしょう。「神を愛する人々、すなわち、ご計画に従って神に召された人々のために益となるように、すべてが互いに働きあうことを私たちは知って

⁸ Mt 8:23-27.

います」⁹。パウロが「すべてが互いに」と言っていることに注目しましょう。聖アウグスティヌスはこれに、「罪さえも」*etiam peccata*¹⁰と書き加えています。この言葉は、私たちにも当てはまります。今回の困難で悲しい出来事もまた、私たち自身の益となるようにしてゆくことが出来ます。今回の出来事を、私たちが福音への新たな信頼を得るための機会としてゆくことが重要なのです。

10. イエスが嵐を静める物語の中心となるメッセージは、神への信頼ということです。この嵐の日に弟子が舟の難破から救われたのは、舟で出かける前に、「彼らがイエスを舟の中に伴っていた」からです。また、実際にトラブルに見舞われたとき、彼らがイエスを「起こした」からなのです。イエスとともにあるということは、私たちにとって、人生の嵐の中における大きな守りの保証ということができます。私たちは兄弟として、あるいはフランススキャン家族とともにある航路の中であって、信仰をもち、祈り、そしてすべてをイエスの聖心にゆだねるということで、舟のなかにイエスを伴うことが出来るのです。
11. 海で嵐に出会うとき、ヨナ書に見られるように、昔の船乗りたちは不必要な重荷を海に投げ捨てるのが常でした¹¹。私たちにも同じことが求められています。私たちも、清貧に立ち返り、過剰な積載物から自由になりましょう。現代の私たちは、偽りの安全性を投げ捨て、神への信仰をもって恐怖と不安の大波を乗り越えて行かなければなりません。嵐にあってイエスの叱責を受けた使徒たちの失敗は、イエス自身が彼らを守ってくれることを疑い、「わたしたちはおぼれそうです」と言って自分の身の保全を求めたところにあります。私たちは、主イエスに対する信頼を取り戻し、主への全き信仰を新しく得なければなりません。
12. そして嵐が静まった時、わたしたちは向こう岸へと招かれます。向こう岸とは、解放のメッセージの到着を待っている異邦人が住んでいる土地です。今日の私たちが、他宗教や他の諸文化と、アシジの精神で対話し続けることは、緊急の課題です。特にイスラム教との対話は、フランススコの心の中でも急がなければならない大きな懸念でした。いくつかの文化圏の間の衝突に光と希望をもたらすために、イスラム教と対話することは、世界の東西南北を問わず、私たちに課せられた任務です。イエスの「幸いなるかな」（真福八端）の教えにも適う「平和を構築する」努力は、私たちが被造物への敬意を払いつつ、正義と平和のために共に働いていくときに実現していきます。

バビロン捕囚の時

13. **第二のイメージ**は、旧約聖書の物語に由来します。その物語とは、バビロン捕囚として神の民が経験した、深刻な危機という出来事のことです。彼らはこのとき、神殿、祭司、それまでの伝統的生活、土地そのものから引き離されてしまいました。この暗闇への旅

⁹ Rom 8.28.

¹⁰ AUGUSTINUS, De libero arbitrio 3, 9-26; De doctrina christiana 3, 23-33.

¹¹ Jonah, 1:5

ともいうべき出来事は、彼らにとっては世界の終わりに思えたに違いありません。ユダヤ教の文化伝統と教えにとっては、まことに「闇夜のとき」でした。自らの民のしるしをすべて剥ぎ取られ、異邦の地の只中に散らされ、イスラエルの民は、おそらく原初的な裸の状態に引き戻されたも同然でした¹²。おそらく彼らは、かつて経験したことがないほどの実存的な貧困状態を経験したと思われます。神の声も、もはや聴くことはできません。暗闇の中をさまよい、彼らは神が何を望んでおられるかもわからなくなっていました。自分たちがシナイ山の麓で神に選ばれた民とは思えず、傷ついた魂の深淵から「神よ、あなたはへりくだった悔いる心を、さげすまれません」¹³と叫ぶのみです。

しかしイスラエルは、魂の深い底から変えられ、新しく生まれ変わっていきます。神の民は「新しい心、新しい魂」¹⁴をもつことの重要性を再発見していくのです。この深き淵から、崩されることのない新しい希望が立ち上がってきます。彼らは暗闇を通ることによって、希望を得ることが神のみ言葉の光によって可能であることを学んでいきました。事実、この後に彼らは、一度は失われた命を再び生き返らせる神に出会うことになるのです¹⁵。

14. もし私たちが、私たちの住んでいるポストモダンのこの世界の只中において、神の子となり、より小さい兄弟となりたく望むならば、暗闇の中で、生きたみ言葉を私たちに語りかけてくださる神への信頼を再び新しいものにしていかなければなりません。私たちは、今日において私たちの兄弟性 (fraternity) の象徴である秘跡を通して、聖福音を生きるよう呼びかけておられる神を信頼しなければなりません。私たちもまた、今日の世界において、真に兄弟であり、神の子である者として立ち上がるために、生きた福音の力を再発見するように招かれています。現代世界において、私たちに施しをもとめる足の不自由な人に対して、私たちは「わたしには金も銀もない。しかし、私の持っているものをあげよう。イエス・キリストの名によって、歩きなさい」と宣言しようではありませんか¹⁶。

そうです。キリストは復活され、今も生きておられ、私たちに信仰の恵みをくださいます。私たちは、この世俗化した世界の中で、「恐れることはない。あなたがたに平和があるように」¹⁷と宣言し、キリストの証しをしていかなければなりません。この世界とすべての被造物は、緊急に平和を必要としています。とくにキリスト者が再び迫害を受け苦しんでいる多くの国々で、今こそ平和が必要です。兄弟会が高齢化し、多くの兄弟

¹² Ezek 16:8.

¹³ Ps 51:9.

¹⁴ Cf. Jer 31:33.

¹⁵ Cf. Ez 27.

¹⁶ Acts 3:6.

¹⁷ Jn 20:9, Mk 16:6.

たちが会を去っていく現実にあっても、私たちには新しい困難に立ち向かう恐れを克服していく勇気を持つことが求められています。

15. 2015年12月8日より、教会は「いつくしみの特別聖年」を祝います。そして来年は偶然にも、ポルチウクラの全免償が始まって800周年の記念すべき年でもあります。フランシスコは兄弟たちに、互いに母が子を慈しむように互いに仕えなさいと教えています。「まことに、母がその肉親の子を養い愛するとすれば、兄弟たちは、どれほど心を込めてその霊的兄弟を愛し、養わなければならないであろうか」¹⁸。フランシスコがこの「母」のイメージを用いるとき、彼は私たちの前にまずこの世界の理想的な母親の姿を思い起こさせ、それからその姿を霊的な母のイメージへと昇華させるよう招いています。慈しみふかくあることとは、自分の持てるものすべてを子に捧げたいと思う母の心と同じだからです。また、フランシスコの回心体験が、「重い皮膚病の人に慈しみを示す」¹⁹ことによって起こったことも思い出しましょう。今日の私たちも、私たちの時代における重い皮膚病の人に歩み寄り慈しみの心を持つように求められています。最後に、こうした深い交わりへの望みは、いつくかの兄弟共同体の中で実際に起こりつつあることを指摘しておきたいと思います。具体的には、これから三年の間に皆さんの目に触れることになるでしょう。兄弟会の歴史的な分節を乗り越えて、私たちは再び、皆がともに助け合い歩いていくための先鞭となることを望んでいます。

教皇フランシスコは、すべてのキリスト者に、福音の喜びを生きるように呼びかけています。また、「家族の中で、私たちが夢を見る力を失うとき、子どもたちは成長することをやめ、愛が育まれることが終わる。そのとき、命は縮小し、やがて消え去っていく」²⁰という事実をよく内省するようにと促しておられます。

16. 私たちが直面しているさまざまな問題で、特に諸宗教、諸文化間の対話が重要であることはすでに言及しました。そして今、私たちはますます広がりつつある貧富の格差について注目する必要があるでしょう。富む者はますます富み、また少数者に集中してきていますが、逆に貧困層はますます貧しくなり、一度は中流階級層に位置していた人々をも呑み込もうとしています。私たちは貧しい人々の叫び声を聞いて、この状況を作りだし恒久化する罪深い構造にチャレンジすることで彼らの声に私たちの声を合わせています。私たちは変革をもたらす働き手でなければなりません。自ら望まずして非人間的な貧しい状況に追い込まれてしまった兄弟姉妹の生活をしっかりと受けとめるのが私たちの召命であることを、これまで以上に確信しました。

¹⁸ RB 6:8

¹⁹ Test 2. … feci misericordiam cum illis (シラ書 35:4 参照)

²⁰ Pope Francis, Discourse in Manila, 16 June 2015.

17. 私たちは、私たちが「兄弟であること」と「より小さい者であること」としての生活を、現代のすべての人に、一つの生き方のしるしとして、価値ある預言的な仕方で提供するように召されています。「兄弟であること」とは、私たちの生活の真実の証しであり、今日の多くの人々にとって現実に立ちはだかっている問題、すなわち、孤独や現代人の多くが体験している経済的不安、人間関係の不全といった不安定要素と戦うように示される具体的な生活様式です。「より小さくあること」とは、誠実に生き、消費主義などの誘惑に負けない真の幸福の源をさがすことに他なりません。私たちの生き方は、周囲の人々に絶えず信じることを愛することを呼びかけることです。このことだけが、宗教的な生き方に命を与え、喜びをもたらす力なのです。

盲人バルティマイのように

18. 聖書に基づく**第三のイメージ**は、総集会の最後のミサの中で朗読されたものです。それはイエスが盲人バルティマイを癒す物語です²¹。私たちはエリコの町の入口近くの、埃っぽい道端に座っている彼に出会います。彼は手を伸ばして物乞いをしており……そのわずかな小銭をしっかりと握りしめています。なぜならそれらは、彼が飢えるか生き延びるかの鍵となるからです。そして彼は、明日も、明後日も、同じような状況が続くであろうと思っています。しかし、**この日**、「イエスが道沿いをこちらにやってくるぞ！」という声を、群衆の中から聴き取るのです。その人は、人々の病を癒すことができるという噂でした。バルティマイは心のどこかで、この人は自分を癒してくださる、ということを確認していました。自分の人生でたった一度、生まれ変わることでできるチャンスが来た！今がその時だ！彼は腹の底からありったけの大声をかき集めて、叫びました。「ダビデの子イエスよ、わたしを憐れんでください！」
19. 兄弟のみなさん、私たちは今、小さき兄弟会の歴史において、このエリコの入口の道端と同じような大きな転換点の前にいると考えています。もし、私たちが、これまで述べてきたようないくつかの将来の展望を実現する道を選びたいと望むのであれば、現時点で私たちに必要なことは、小さき兄弟として、私たち自身が癒される必要があることを認め、主に憐みと慈しみをもとめて叫び声を挙げることです。総集会の第三週目に、私たちはローマに赴き、教皇フランシスコに謁見する恵みをいただきました。教皇様は、「より小さくあること」とは、まず私たち自身の現実をしっかりと知覚することであると教えていただきました。私たちは、「神の前に、小さく、貧しく、助けを必要とする罪深い者」なのです。「私たちがこのことに気がつけば、それだけ深く救いに近づくことができる。罪人であると気づけば気づくだけ、救われるに値するものとなっていくことができる」のです。私たちはより小さい兄弟として、今、非常に弱く、罪深い者たちであり、神とその民からの慈しみを乞い願う必要があることを、心から悟りたいと思います。特に、私たちは、私たちが間違いを犯す者であり、時としてそれは深刻な間違い

²¹ Mk 10:46-52.

であり、現在、私たちの資産運営の上でこうした間違いが起こったのだということをしつかりと認め、受け止めたいと望んでいます。

20. 総集会に集った兄弟たちは、バルティマイと同じく「主よ、目が見えるようにしてください」と祈りました。確かに、今回の総集会の注目すべき緊急の課題は、兄弟会の総本部を襲った財務運営上の深刻なダメージと向き合うことでした。今回の出来事は、まさしく私たちの「より小さくあること」の本質を証明した出来事でした。私たち小さき兄弟は、まことに貧しく、助けを必要とする者たちです。総本部は、今や道端に座り、物を乞う者となりました！しかし事件のダメージは単に私たちの外面にだけではなく、霊的にも倫理的にも大きな傷を負わせています。今回の総集会において、私たちは目の前で、今回の危機が私たちの人間性の上にも影響を及ぼしていることを目撃しました。わたしたちは、多くの兄弟たちが、彼らの奉仕の貴重な実りの一部を献金として誠実に総本部に委ねたのに、それがまったく失われてしまったことに、深く動揺し怒っていることを感じとりました。私たちは、彼らの心の痛み、特に新しく立ち上がったばかりで総本部の援助を必要としている兄弟共同体の苦しみを知っています。そして何より、今回の出来事は、長年にわたり兄弟会と深い関わりをもち、会の数々のプロジェクトを支援して下さった方々を傷つけてしまいました。小さき兄弟会は、それでもなお、彼らの信頼を得るに値するのでしょうか。私たちはもう一度、教皇フランシスコの声を心に深く刻むべきです。「あなたがたは神の民の中で、『より小さくあること』『兄弟であること』『柔和であること』『謙遜であること』『貧しくあること』の正しさを、正に相続しているのです。私はみなさんをお願いします。どうかこれらの遺産を守ってください！これらの遺産を失わないでください！神の民は、真剣にこのことをあなたがたに願っています。神の民は、あなたがたのことが大好きなのです」。それゆえ、私たちはこの総集会において、小さき兄弟たちが受け継いでいるこれらの遺産を、全力で引き継いでいくことを決意し、また主とその民から受けたすべての善きことを、細心の注意で守っていくことを話し合ってきました。私たちはすべての兄弟たち、とくに総集会に参加している兄弟たちに乞い（beg）願います。どうか小さき兄弟会に対するあなたがたの信頼を新たにし、深めてください。総集会は、参加者である兄弟たちに信頼し、彼らが、確信と愛をもって、イエスの癒しの言葉を受取ってくれることを願っています。「よろしい。あなたの信仰があなたを救った」。
21. しかし、兄弟会の執行部中枢を襲っている現行の財政危機は、教皇フランシスコが語っておられる私たちへの課題と同じく、すべての小さき兄弟たちの在り方に直接触れることでもあります。お金と物品の使い方という問題です。バルティマイの物語には、もう一つ、興味深い側面があります。バルティマイは弟子たちに「安心しなさい、立ちなさい、イエスが呼んでおられる」と声を掛けられたとき、「マントを脱ぎすて」、躍り上がってイエスのもとに來たのでした。彼は、路上で生活する者にとって貴重な所有物であり、夜の寒さから彼を守ってくれるはずのマントを投げ捨ててしまいました。そしておそらく、彼は手にしていたはずのわずかな小銭も、落として失ってしまったのではな

いでしょうか。彼はイエスの「わたしに何をしてほしいのか」という問いに興奮していました。新しい命へと招くイエスの言葉は、彼のこれまでの保身の糧を忘れさせてしまうほどだったのです。この総集会において、私たちが「兄弟であること」「より小さい者であること」に招かれているとすれば、「何も自分のものとせず」²²という、より小さい兄弟としての本質的な姿勢を思い出さなければなりません。今年の「奉獻生活の年」は、私たちに何度も「喜びにみちた清貧」を生きるよう呼びかけてきました。残念なことに、時として多くの兄弟たちが、このことを忘れてしまったかのように振る舞っています。私たちは時々、私たちの個人的な所有物が、神の民によって私たちに委ねられている善きものなのかどうか、自問する必要があります。それらは、私たちの恩人や実際に貧しい人々に何の負い目を感じることなく、私たちにふさわしく使うことが委ねられているのでしょうか。私たちは、日ごろの私たちの労働の実りを、そのまま兄弟共同体の必要に充当する前に、一旦私たちから切り離して見つめなおしてみるべきかもしれません。あるいは兄弟共同体は、管区全体の兄弟の必要に対する責任を負うことなく、自分たちの共同体だけのために蓄財してもよいのでしょうか。あるいは、各管区は、小さき兄弟共同体全体の必要を無視して、自管区だけの保身や快適さのために腐心してもよいのでしょうか。現行の財政危機は、私たちに、福音的生活の基本に立ち戻るように呼びかけています。「私たちは、私たちの主イエス・キリストの教えと足跡に従うことを望みます。主は言われます。『もし完全になりたいのなら、行って、持っている物をすべて売り払い、貧しい人々に施しなさい。そうすれば、天に宝を積むことになる。それから、私に従いなさい』²³。私たちは、本当に、自分自身の所有物を持たず、一つの家族として一つに結ばれ、神の祝福をともに喜び、神の貧しい人々とすべてのものを共に分かちあいます。私たちは、「みな押しなべて、より小さい兄弟」²⁴なのです。

22. また私たちは、バルティマイの物語の最後の言葉にも注目しましょう。「彼は目が見えるようになり、なお道をゆくイエスに従っていった」。彼の道は、もはや以前の生活に戻る道ではありません。彼は弟子たちの共同体に加わり、エルサレムでの死と新しい復活の生命への道を行くイエスに従っていくのです。私たちは、総集会の初日からずっと、会則が示すように、私たちが聖福音に従い、『現代において兄弟であり、より小さい者であること』の道を見出す勇気を持つことが出来るように、主に願い祈ってきたのです。
23. 私たちはこの道が、イエスがそうであったように、自分を空しくし、謙遜な愛をもって、辺境へ、ガリラヤの果てへ、貧しく誰にも愛されない人々のもとへより近く寄り添っていく道であることを知っています。これこそ、フランシスコが裁可されていない会則の中で語っていたことです。「卑しくて見捨てられている人々の間や、貧しくて体の不自

²² RB 1.1.

²³ RnB 1.1-2, cf. Mk 19.21

²⁴ RnB 6.3

由な人々、病人、重い皮膚病の人、道端で物乞いする人々の間で生活する時、兄弟たちは喜ぶべきである」²⁵。復活節の間中、私たちは使徒言行録の中で、イエスの最初の同伴者たちが、異邦人の地や穢れているとされていた土地、あからさまな敵意を見せる地にあっても信じる者の数が増え、神の霊がすでに生き生きと働いておられる事を認めていく出来事に耳を傾けてきました。しかし、バルティマイのようにイエスに従い、辺境へと出かけていくためには、私たちの身の安全というマントを脱ぎ捨て、ペトロとパウロのように、時として多くの物や考えからさえも脱却して、イエスにのみ信頼し、神の国へと歩き始めなければなりません。

アブラハムとサラのように

24. 聖書に基づく**第四のイメージ**：統計では、世界の中のある管区では兄弟数の減少と高齢化が進み、またある管区は活性化して成長している、という結果が出ています。私たちは冷静にこの両方の現象—危機に直面している兄弟共同体と、成長している兄弟共同体の存在—を受けとめたいと思います。数的減少に直面している兄弟共同体では、たとえ良い要素が見いだせるにしても、世界の急激な変化を前にして、自分たちの将来について考え始めざるを得ない場合があります。このような状況下では、「舟が沈みかけている！自分を守らなければ」といった悲観的な空気が支配的になることもあり得るでしょう。こうした空気は、屋根の上であからさまに叫ばれているのではなく、公にはそんなことはない拒みながらも、心のどこかで考えている、という形で表れているかもしれません。こうして本心を隠しながら、ある兄弟たちは自分のポケットに個人的な預金通帳やクレジットカードを握りしめて、密かに隠居の準備を始めているかもしれません。これは私たちの福音的召命にまったく反した態度です。私たちがとることのできる唯一の積極的な態度は、こうした不安の夜の中で止まってしまおうのではなく、聖書の言葉の光の中で、「夜が明け、明の明星が昇ってあなた方の心を照らすまで」²⁶、不安を乗り越えて行くことなのです。
25. 私たちが召されている希望に留まり続ける在り方は、預言的な方法で生き抜かれます。それは、太祖たち、特にアブラハムのように。彼は100歳を超えた老齢になって、神からの約束を受けたのでした²⁷。彼の妻サラは90歳になっていました。三人の旅人がマムレの檜の木の下を通った時、中東世界に住む良き人アブラハムは、彼らを暖かくもてなします。彼はまず三人の足を洗う水を用意します。そして少量のパン菓子と牛乳のスープ、子牛の料理を準備します。そしてアブラハムは、この三人の旅人に向かって、「私の主よ」と呼びかけたのでした²⁸。ヘブライ人への手紙の著者は、「手厚く旅人を

²⁵ RnB 9.2.

²⁶ 2 Pt 1:19.

²⁷ Gen 21:5 参照.

²⁸ Gen 18,3.

もてなす人は、知らずにみ使いたちをもてなしている」²⁹と言います。私たちはこの言葉に加えて、修練者を受け入れる心遣いを加えてもよいかもしれません。

26. サラは、天のみ使いたちの、「あなたの妻は男の子を産むでしょう」という声を聞きます。この時サラは心の中で笑ってしまいますが、それは信仰の欠如のしるしとなりました。しかし、この笑い声は詩編第二編において、神がすべての不安を払いのける「天に座す方は敵を笑い、主は彼らをあざける」³⁰という言葉をも同時に思い起こさせるものです。神の笑い声は、人がいかにして変容していくのかをよく知っています。神の笑い声は、私たちの心の防御を取り除き、私たちの不安の武装を解除してくれるのです。

神にとって不可能なことなどありません。この言葉は天使ガブリエルがマリアに受胎告知する場面でも繰り返されます。そして、サラも神の言葉を信じたのでした。ヘブライ人への手紙の著者は、「サラはその信仰によって、自身が不妊であり、老齢に達していたにもかかわらず、子孫をもうける力を得ました。約束をなされた方が誠実な方であると信じたからです」³¹と語っています。

27. 私たちの問題の核心は信仰です。急激に変化し続ける世界の中で、私たちがなすべきことは、信仰の危機的側面を見て不安になることではなく、神の計画の一部であるさまざまなしるしを、神秘として信仰をもって迎え入れることなのです。「私たちには、非常に確かな預言の言葉もあります。夜が明け、明けの明星が昇ってあなた方の心を照らすまで、暗い所で輝くともしびとして、この預言の言葉に、目を注ぐとよいでしょう」³²。私たちはサラの笑いを続け、その喜びの目撃者であり続ける必要があります。サラの胎を開いた神は、今もなお、小さき兄弟会に、しかも800歳の年齢に達している私たちの共同体に実りをもたらすことの出来る方なのです。
28. 総集会の期間中に、私たちはさまざまな管区や共同体が自分たちの生活の美しさを紹介するために作成してくれたビデオを楽しみ、その中に兄弟たちの生き生きとした姿とエネルギーを感じ取りました。私たちは言葉による励ましに加えて、小さき兄弟会の将来を担う若い管区や兄弟共同体に、私たちの信頼と敬意を表したいと思います。私たちは、新しく生まれつつあるあなたがた若い管区・兄弟共同体を、神からの恵みとして心から歓迎します。
29. 私たちは、大いなる謙遜をもって、また現実を踏まえた視点から、これまで繰り返されてきたような通常の枠を超えて皆さんにある提案をしたいと思います。若い兄弟共同体は、西洋文化を単に模倣するのではなく、それぞれの文化圏の特色に敬意を払いつつ、アシジの精神をもって自分たちの生活の在り方を見出していくことができます。フランシスコは普遍的な人であり、彼のカリスマの美しさは、すべての文化を新しく発酵させ

²⁹ Eb 13, 2.

³⁰ Cfr. Sal 2,4.

³¹ Eb 11,11.

³² 2 Pt 1,19.

るようにして昇華していくことができる点にありました。そのために必要な識別は、すべての兄弟に委ねられています。

30. 私たちは、召命の数がその質を決めるわけではないことを知っています。準備された養成担当者は、小さき兄弟会に特有な家族的雰囲気、若い兄弟たちによく伝えていくべきです。彼らを、世界を席卷している、仕事至上主義のウィルスに感染させてはなりません。これまでの古い兄弟共同体が陥ってしまった失敗を繰り返さないようにしましょう。
31. アブラハムとサラの息子は、イサクと名づけられました。この名は、「微笑みの子」という意味です。私たちの若い兄弟共同体は、それぞれの文化の中で、彼らを取り巻く人々にとって、神の微笑みであるべきです。こうして、福音の喜びは、平和を求める世界を作り上げていくことになるでしょう。また聖霊に心を開くことにより、私たちはこの世界における預言者となるでしょう。フランシスコは、神のみ旨を成し遂げるようにと、私たちに教えています。ちょうどイサクが神のみ旨が行われることに同意したように。

喜びをたずさえて出かけるよう召されて

32. 兄弟のみなさん、もし総集会の一ヶ月の間に明らかにされたメッセージが一つあるとすれば、それはこれです。私たちは、「外に出かけていくように」と、再び召されています。800年前、ポルチウクラの前でフランシスコは最初の兄弟たちを「二人ずつ組にして」、行いをもって（必要であれば言葉を用いて）福音を述べ伝えるために宣教へと派遣しました。今私たちもまた再び、福音の喜びを述べ伝えるために遣わされます。私たちは再び神の慈しみの宣教者として派遣されるのです。私たちは再び辺境へと、必要とされる場所ならばどこへでも—それが世界の果てであっても、あるいは私たちの生きているすぐ近くの道端であっても—遣わされて出かけて行きます。これはいつの時代であっても、より小さい兄弟としての生き方の核心でした。そして私たちは「さあ、ふたたび始めましょう」と招かれているのです。
33. 私たちは、総集会の期間中、私たちが直面している課題を分析しました。それらのあるものは、兄弟会の内部から立ち上がってくる課題であり、またあるものは、私たちを取り囲む世界の状況から生じている課題でした。しかし同時に、私たちの兄弟的生活の中の多くの新しいしるしが、私たちに深く励まし鼓舞してきたことも事実です。総集会に集められた私たち兄弟が互いに感じていた感覚は、決してネガティブなものではなく、むしろポジティブで深い希望に彩られたものでした。もし私たちがふたたび福音的生活を生きる決意を新たにすることを選ぶのであれば、私たちはみな、個人において、共同体において、管区において、真実に兄弟であり、より小さい者であることを決断し、神の愛の喜びと慈しみが絶望的なまでに望まれている場所へ、出かけて行かなければなりません。その時、この総括文書は単なる文書であることにとどまらず、私たちの生活の中で生きた糧となっていくでしょう。

34. 私たちは天使の聖母に捧げられたこの場所から出発するにあたり、教皇フランシスコの言葉に導かれて祈ります。³³

母なるおとめマリアよ、
あなたは聖霊に促され、
いのちのことばを
その謙虚な信仰の奥底に受け入れ、
永遠なる方にご自分を完全にゆだねられました。
わたしたちも「はい」といえるよう助けてください。
急を要し、かつてないほど切迫しています。
イエスのよい知らせを響かせることが。

わたしたちに今、復活した者としての新しい熱意を与えてください。
死に打ち勝ついのちの福音を
すべての人にもたらすために。

新しい福音宣教の星よ、
あかしをもって輝くことができるよう助けてください。
交わり、奉仕、熱く惜しみない信仰、
正義、貧しい者への愛、そのあかしで。
福音の喜びを地の果てまで届けるために。
そしてだれも、その光の届かない隅にいることのないように。

³³ 教皇フランシスコ 使徒的勧告「福音の喜び」288

付録1 2015年総集会決定事項

A. 総本部レベルの事項

混合修道会 (Mixed Institute)

1. 小さき兄弟会総本部およびその他の兄弟共同体の運営は、兄弟会における非聖職者の兄弟のアイデンティティを強化しつつ、兄弟間で等しく担われるべきである（会憲第3条）。
2. 総集会は、総理事会に対し、「奉獻生活」61に言及されている混合修道会に関する事項が実現されるように、聖なる教皇様に、もう一度新たにお願いするよう要請する。

初期養成および生涯養成

3. 総理事会は、総本部養成事務局とともに、世界的視野に立った兄弟性を育む召命・養成の文化的・司牧的配慮を深めていく。そのために、養成綱領および兄弟会の養成資料を養成のための適切な規範とし、霊的同伴の分野に関して、養成担当者の集いや会議、兄弟会全体の取り組みを促進するべきである。
4. 総理事会は、総本部養成事務局と共に、文化的・国際的な神学の側面から小さき兄弟会の生活とミッションの現代的課題を共有するために、小さき兄弟会の大学および研究センター間の共同研究を進め、高いレベルの学問的な研究、講義、出版を通して、フランシスカンの知的財産の発展を促進する。また、（総理事会は、総本部養成事務局と共に）、ローマ・アントニオ大学と他の兄弟会の学問研究センターおよび他のフランシスカン・ファミリーとともに、より高度な学問の共同研究の可能性を探り、そのための努力を励ましてゆく。
5. 総理事会は、総本部養成事務局とともに、諸管区間における国際的で文化交流的なフォーメーションハウスの建設とそこにおける養成経験を育む努力を続ける。また、ローマのアントニオ大学にあるフランシスカン・コミュニティ「福者アレグラ共同体 (B. P. Allegra)」における生活プロジェクトのような国際的な兄弟会の宣教プロジェクトを推進する。

忠実と堅忍

6. 総理事会は、聖座渉外総代理、総本部養成事務局、総本部福音宣教事務局、またアントニオ大学と他の専門機関とともに、各管区の管区会議やその権威との連携のもとに、召命の危機の時代にあって更に召し出しの動機を深めるため、また、現代的な文化背景に由来する問題や人生の発達段階などを考慮しつつ、新しい活力を与えるような初期養成と生涯養成の在り方を刷新していく方法を探る、「誓願を守り、終生本会に留まるように支える」(The Service of Fidelity and Perseverance) 委員会の任命を継続する。その国際的委員会は、兄弟たちや兄弟共同体が召命の取り組みを繰り返し見つめなおすことができるような、オンラインでのガイドブックを作成する。

隠遁所と祈りの家のガイドライン

7. 総理事会は、それぞれの兄弟共同体や少なくとも管区長協議会レベルにおいて、隠遁所あるいは祈りの家の共同体が設立され、特にフランシスカン的な祈りの生活や信心業への関

心が高められるように、ガイドラインの出版や具体的な提案を通して励ましていく（総則第15条1項）。

「貧しい者、より小さい者」としての生活のためのガイドブック

8. 総理事会は、各管区長、分管区長、およびすべての兄弟たちに、私たちが「貧しい者、より小さい者」として、いかにして誠実に、具体的に、真正に、貧しい人々とともにあって、生きていけるのかを示すガイドブックを準備する。このようにして、すべての兄弟共同体が、貧しい者と「ともに」、そして貧しい者の「只中に」で連帯して存在する共同体となることを確かにするためである。

国際財務委員会

9. 総理事会は、財務に関する経験豊かな兄弟と専門家の信徒から構成された国際財務委員会を設立する（総則第160条）。委員会は、総理事会に財務の年次報告を提出し、管区長協議会議長たちとの年次会合を開催する。

被造物の保全に関するガイドブック

10. 総理事会は、被造物の統合に関して、聖書学、教会論、フランシスカンおよびその他の研究機関とともに、ガイドブックを作成し、またそれぞれの兄弟共同体が現代のエコロジーの問題に応えるための指針を提供する。

11. 各構成単位（管区）は、生涯養成の企画実行を担当する兄弟、福音宣教およびJPICのアニメーターである兄弟と、このガイドブックを活用し、兄弟会のカリスマである被造物の保全が、私たちの生活の一部となり、共同体における私たちの個人的・社会的活動を担うものとなるようなプロジェクトを発展させる。この課題は、管区長協議会議長と総理事会の会合の場で評価される。

存在と福音宣教に関する兄弟共同体の新しいあり方

12. 小さき兄弟会執行部とその他の兄弟共同体は、養成事務局、福音宣教事務局、JPIC担当室とともに、刷新された新しい預言的な兄弟的生活のあり方を探求する。また、「*Ite Nuntiate*」2 § 1 (pp30-31) に挙げられた7つのポイントと「総集会議案書」(*Instrumentum laboris*) 84と98に挙げられた事柄を考慮して、小さき兄弟会は、貧しい人々へ、辺境へ向けて（地理的意味でも実存的意味でも）、存在と福音宣教に関する兄弟会の新しいあり方を模索し、外へと出かけていくあらゆるレベルでの活動を推進していくべきである。

福音宣教のためのガイドライン

13. 総理事会は、総本部福音宣教事務局とともに、総集会のための総本部福音宣教事務局報告に含まれる提案からはじめて、福音宣教のためのガイドライン（2009年総集会の指令16参照）を発展させる。

宣教師の養成

14. 総理事会は、総本部福音宣教事務局とともに、ブリュッセルの宣教師養成共同体（*Notre Dame des Nations*）において、宣教師のための初期養成と生涯養成を続けていく。同コミュニティーは、ラテンアメリカで準備されている同様のコースである UCLAF と同じく、フランシスカン・ファミリーのメンバーにも開かれている。

小さき兄弟会に委ねられた使徒座代理区 (Apostolic Vicariates)

15. 総理事会は、聖座との対話によって、小さき兄弟会に委ねられた聖座代理区を保持していくこととする。すべての兄弟は、これが教会の要請に基づくものであることを知るべきである。現在の使徒座代理区は、その規模の評価に従って、これを支える人的、財政的支援が必要である。

総本部福音宣教事務局の経済的支援

16. 総集会は、総則第72条2項の規定（「総本部福音宣教事務局は、本会のすべての構成団体からの資金援助によって支えられる。総会はこの援助のための方法と割合を決議する」）が、資金援助に関する小さき兄弟会の現行の振り分け様式に従い、兄弟共同体の貢献によって実施されるべきことを確認する。

総本部学問と養成総事務局の経済的支援

17. 総理事会によって確立されていた学問と養成総事務局のための基金は、2012年5月の管区長協議会議長会議を踏まえ、協議会議長会議の間に行う年次評価とともに次の総集會まで継続されるべきである。

B. 各構成単位（管区、分管区等）レベルの事項

兄弟共同体の生活：計画と評価

18. 管区長とその管区理事会、分管区長とその評議会、修道院長と共に、兄弟的生活の本質的な側面（会則、会憲、総則、「Ite, Nuntiate」 pp30-31）に関して、どのように共同体を育てていくべきか、プログラムを組み、年次に評価を行っていく。

各兄弟共同体のエコロジー関連プログラム

19. それぞれの兄弟共同体における生活とミッションのプロジェクトにおいて、被造物に対する敬意と配慮（JPIC担当室「小さき兄弟たちの日常生活における被造物への配慮」2011年）を示すための具体的なライフスタイルの選択を促進するために、エコロジーに関するプログラムが取り上げられ、取り組まれるべきである。総視察者はその任務においてこのプログラムを吟味し、促進させるべきである。

参考資料

- 1) JPIC 担当室「小さき兄弟たちの日常生活における被造物への配慮」2011年は、以下のアドレスのページからダウンロード出来ます。 <http://www.ofm.jp/wp/archives/1173#more-1173>
- 2) “Ite, Nuntiate... Guidelines for the new Forms of life and mission in the Order of Friars Minor”, 2014, Roma, pp30-31.

2011年にサッソーネ（ローマ）のカルメル会で行われたセミナーの最後のメッセージで、生活とミッションの新しい在り方についてのガイドラインを作りたいとの要請が出

されました。その目的は、新しい在り方として不可欠の諸要素が何であるかを突き止め、それを本会の各構成単位に知らせ、各構成単位が自らを解放して、同様に「新しい」兄弟共同体を推進するように促すことです。従って、常に意識しておくべき諸要素を以下に挙げます。

1. 祈りの生活と御言葉を聴くことが一番大切です（毎日の、そして週ごとのレクチオ。一日一時間一人で祈る。「教会の祈り」を「観想しながら」唱える）。
2. 兄弟的生活の証しを輝かせるような本当の深い兄弟関係を育む（頻繁な修道院会議、日々の兄弟的な対話、インターネットや携帯電話やテレビのようなコミュニケーション手段の使用を自制する）。
3. 質素で地味なライフスタイル：より小さくあることの証し（聖フランシスコの意思に従って手仕事を大切にするなど具体的な選択を行う；できれば外部の人を雇うことなく、家事労働を分担する；経済的に自力でやって行く）。
4. 人々、特に貧しい人々を受け入れ、彼らと生活体験を分かち合う（人々との出会い）。
5. 人々の間に根差す福音化するミッション、旅人として生きること、未知の困難で危険な地域に身を置くこと、最も貧しい人々、苦しむ人々、疎外された人々のそばに居ること、特に辺境の地に注意を払うこと、新しい在り方で福音宣教すること、そして、「地域に根差した」兄弟共同体となること（共同体の禁域〔cloister〕から出て、修道院〔cloister〕である世界へ向かう）。²⁹
6. 地元の教会との交わり（主に兄弟性と小ささの証しとして）。
7. 信徒やフランシスカン家族との積極的な協働の在り方を喜んで受け入れる態度（パレスチナの欧州宣教兄弟共同体および福音宣教総本部事務局に関して、諸管区間及び国際的なレベルで、また、さまざまな構成単位の間で）。

²⁹ 2009年総集会の指令 20 参照：「通常の福音宣教活動を放棄することなく、新たな試みが奨励されるべきである。新しい形の巡業型福音宣教と「地域に根差した (inserted)」兄弟共同体を通して、宣教活動と福音化の側面を促進するために、総理事会は、それぞれの管区長協議会の協力を得て、典型的にフランシスカン的な（兄弟たち及び信徒のための）養成の試みを奨励すべきである。」

3) 2015年総集会議案書 (Instrumentum laboris) 84、98

84. 総集会議題準備文書 (Lineamenta) への回答を踏まえると、現代の貧しい人々は極めて多様なカテゴリーに見られ、単に物質的に貧しいというのをはるかに超えています。病気の人々や疎外された人々、隅に追いやられた人々、軽蔑され、忘れられた人々、絶望した人々、生きる意味や希望を持っていない人々、食物に飢え、神に飢えている人々、最も弱い人々、恵まれない人々、疎外され、虐待される女性、まだ生まれぬ子供たち、ホームレス、薬物依存症者、移民、人身売買の犠牲者、難民、先住民、辺境に住む人々、見捨てられた高齢者、そして、乱開発され、もてあそばれた被造物すべてを、私たちは貧しいものたちとして捉えています。

98. 「片隅」に身を置くあかしとしての密着した共同体をつくる。「持たざる」人々、貧しい人々、隅に追いやられた人々、社会の「見えない、消耗品」とされた人々に寄り添い、仕える（共同体）、そうした人々の権利や主張を護り、権力者の不正を糾弾する（共同体）。このような共同体をもっと活用すれば、私たちのカリスマの特徴をもっと徹底的に生き抜くことができる。

4) 2009年総集会の指令 16

16. 総長と総理事会は、本会全体のミッションに備える指針を作成するために、ブリュッセルの宣教師養成講座を注意深く検討する。

5) 総則第15条

(1) 管区長たちは、自己の管区内、もしくは管区長協議会の地域内に、少なくとも一つの隠遁所、あるいは祈りの家を設立するよう努力する。

(2) そこに居住する兄弟たちは、自分たちの静修を妨げない範囲で、進んで信者のグループを受け入れ、彼らにフランシスカン的な祈りの手ほどきをする。

付録2 教皇謁見

1. 総長マイケル・ペリーの、教皇フランシスコへの挨拶

2015年5月26日 Sala Clementina にて



私たちの愛するフランシスコ教皇様、私は小さき兄弟会の総集会に集まった兄弟たちを代表して、教皇様に心からの敬愛の挨拶を申し上げます。

私たちは、アシジの聖フランシスコが兄弟たちに集うように望んでいたポルチウンクラの聖堂において、5月10日より（総集会のために）集まっております。

ここにおります兄弟の一人一人が、心を合わせて、教皇様が常に私たちに示してくださる優しさに心から感謝しています。また特に、今日私たちに謁見の機会を与えて

いただきましたこと、また総集会のために親愛なるフランシスコ・ザビエル・エラズリツ・オッサ枢機卿を派遣して下さったことに感謝いたします。枢機卿はその兄弟的な心遣いと保護者としての権威をもって、小さき兄弟会に対する教皇様のご配慮と愛情深い気遣いを私たちに伝えてくださいました。

しかしながら教皇様、私どもはこの場に、ほんのわずかの手土産もなく、空の手で参上してしまいました…。総集会の参加者はすでに教皇様へのお土産として準備していた（アルゼンチンの）マテ茶でさえも、全部飲み干してしまったのです！大酒飲みでもアシジにはもう一滴の酒も見つけれないでしょう！

私たちは、総集会のテーマを、「現代において兄弟であり、より小さい者であること」という短いフレーズに要約しました。二つの言葉が、このテーマに表現されています。それは、聖フランシスコ自身がその同伴者たちのために選んだ名前である「兄弟」と「より小さい者」という言葉です。私たちのこの名称は、現代において、私たち自身に、「どのようにより小さい兄弟となっていくことができるか」と問いかけてきます。私たちは、現代のこの世界が私たちに証ししてほしいと望んでいることが、この「兄弟であること」「より小さな者であること」に他ならないことを自覚しています。私たちは、「主なる教皇様」である貴方のもとに（私たちを導いていただくために）参りました。これは、聖フランシスコが聖なるローマ教会への変わらぬ忠誠を示し、導きと矯正と勧告を受けるため、そしてそのようにしてイエス・キリストの足跡により忠実に踏み従っていくことができるようにと願っていたことと同じ想いによるものです。

私たちはまた、教皇様が環境保護・エコロジーのテーマについて語られるとき、私たちをその証しと分かち合いへと招かれるだろうということを自覚しています。このテーマは、私たちすべてのより小さい兄弟にとってとても身近で大切なものです。私たちは、この分野において、教皇様が私たちに望まれることを、可能な限り、具体的な優先選択として受け入れていくことをこの場でお約束したいと思えます。

今回の総集会と、教皇様との謁見によって、私たちは、小さき兄弟としての私たちの生活が、活力と、勇気と、熱意を取り戻すことを心から願っています。こうして、私たちは、復活したキリストの言葉「あなたがたに平和があるように」という言葉を再び力強く宣言していく望みと力に満たされて、また教皇回勅「福音の喜び」(Evangelii Gaudium)の証し人となるべく、私たちが集まってきた五大陸へと再び帰っていくことが出来るのです！

しかし、時として私たちの生活は鈍くなり、小さき兄弟としての信用を失うということも起きてしまいます。聖なる教皇様、よくご存じの通り、私たちの兄弟会のカリスマである「小さくあること」「貧しくあること」の土台が、特に財産管理に関する不手際により大きく躓いてしまう出来事が発生しました。

この総集会において、私たちはこの問題に誠実さと透明性をもって取り組み、解決の道を探る努力を続けています。願わくはこの深刻な事態が、神の恵みによって、私たちが望んでいる本来の福音的な生き方へと復活していくための、過ぎ越しの体験となっていきますように。福音こそ、私たちの生き方の確固たる土台なのです。どうか主が、聖霊の導きによって、兄弟の絆の間に生じた傷をいやしてくださいますように。

聖フランシスコは会則の最初と最後において、「聖福音を守ること」という言葉と「教皇ホノリオと、教会法的に正しく選ばれた彼の後継者と、ローマ教会に対する従順と尊敬」という言葉を強く結びつけて表現しています。それゆえ、私はこの教皇様への挨拶を、会則の最後の言葉をもって終わりたいと思います。そこには、今日ここで、わたしたちがなぜ教皇様の前に参じているか、雄弁に語られています。すなわちそれは、「私たちが常に聖なる教会の足下に臣下としてとどまり、カトリックの信仰を堅持し、固く約束した通り、私たちの主イエス・キリストの清貧と謙遜と聖福音を守るため」であります。

☆☆

2. 教皇フランシスコのお言葉

親愛なる小さき兄弟のみなさん

ようこそ！私は総長である兄弟マイケル・ペリーの心からの言葉に感謝します。また皆さんの前にある取り組むべき課題に対して、励ましの言葉を送ります。また小さき兄弟会のすべての兄弟たち、特に、会のこれまでの歩みの記憶を担い、また十字架に架けられたキリストの現存の姿でもある、高齢の兄弟たち、病気の兄弟たちに挨拶を送ります。

この場に来られるまで、皆さんは特に兄弟会のアイデンティティーの二つの本質的な要素に身をゆだねての内省と祈りの日々を過ごしてこられました。すなわちそれは、「小さくあること(la minorità)」と「兄弟であること(la fraternità)」です。

私は、二人の若いアルゼンチン人の兄弟たちに、「私は『小さくあること』について何か話したいと思うが、何を話したらよいだろうか？」と助言を求めました。すると一人の兄弟



は「神が私を小さくしてくださいます」と答え、もう一人の兄弟は「教皇様が今なさっていること、神に尋ねること、それこそ、毎日私が行っていることです」と答えました。これが、私の国の二人の若い兄弟が私に教えてくれた、「小さくあること」の意味です。

「小さくあること」とは、神の完全なあわれみに信頼し、その御前にあってこそ、小さくあり、また小さくあると感ずることです。神のあわれみの前に「小さくあること」、つまり神の前での自分の小ささや、自分が神の助けを必要とすること、また神の前に自らが罪人であることを認めない者には、神のあわれみということの意味は理解できないでしょう。私たちはこのことに気づけば気づくほど、また救いへ近づけば近づくほど、自分がどれほど罪深いものであるのか、またどれほど救われる必要があるのか、深く自覚するようになります。福音書は、イエスの前に自らの貧しさを認めるものが救われていく、と語ります。救われる必要を感じない者には、救いは与えられません。それは決して救いへと招かれなかったからではなく、招きの声を聞き入れなかったからです。「小さくあること」とはまた、自分自身から抜け出すこと、自分固有の視点や偏見から出ていくことでもあります。それは新たな取り組みへと一步を踏み出すことです（賢明な踏み出しであれば、これはとても有益なことです）。また、それはこれまでの習慣や安全性を超えて、真実の分かち合いと奉仕の精神をもって、現実に貧しい人々、助けを求めている人々、辺境に生きている人々との親密な関係へと出かけていくことです。

また、「兄弟であること」の次元も、福音の証しの特別な方法です。初期のキリスト教会では、キリスト者は兄弟的共同体の生活を共にし、一致と愛の、目に見える魅力的なしるしとしていました。人々は、キリスト者が愛の絆によって深く結ばれ、赦し受け入れあい、隣人愛に満たされて、人生の喜びや苦しみを皆で分かち合っていることに深く感動していたのです。小さき兄弟会ファミリーは、この「兄弟であること」の絆を、相互の信頼を回復することを通して、具体的に示していくように召されています。私はこの「相互の信頼を回復すること」、人間関係の傷をいやしていくこと、を強調したいと思います。それは、この世界が、キリストの愛が傷を癒し、世界を一つにしていくことを、見て、信じるようになるためです。

このためには、小さき兄弟たちよ、自分たちが神のいつくしみと、和解と、平和の担い手であるという覚悟の部分が回復されていくことが重要です。もしあなたがたが、常に「外へと出かけていく」共同体であり続けるならば、きつこうした召し出しへの豊かな実りを体験していくことになるでしょう。このことは、「Sacrum Commmercium」に記されている、皆さんに与えられたカリスマとも一致します。皆さんの会の源泉資料であるこの物語の中で、最初期の兄弟たちは「あなたがたの修道院（cloister）はどこか」と尋ねられました。その質問への答えとして、彼らは丘の上に上り、見渡す大地を指して、「これが私たちの修道院（cloister）です」と答えたのでした(63: FF 2022)。

親愛なる小さき兄弟のみなさん、聖フランシスコが皆さんを招いていた通りに、世界全体であるこの修道院の中へ、キリストの愛に促されるままに、今日も出かけてください。聖フランシスコは裁可された会則の中でいいます。「私は主イエス・キリストにおいて忠告し、戒め、勧める。兄弟たちはこの世をめぐる時、争ったり、口論したり、他人を裁いたりせず、より小さい者にふさわしく、柔和で、平和をもたらし、慎み深く、温和、謙遜であり、すべての人に対して、礼儀正しい言葉を用いて話すようにと。……どの家に入っても、先ず『この家に平和があるように』と言う。そして、差し出される食べ物はすべて、聖福音によって食べることができる」(III, 10-14: FF 85-86)。（この最後の節がいいですね！）

この勧告の言葉はとても素晴らしいものです。これはまさに、今日の私たちの世界のためにも、「兄弟であること」と「より小さくあること」の預言的な言葉そのものです。今日の世界において、キリスト者、信徒や奉献生活者が、争いや口論に自らを見失わず、すべての人々と静かな対話を深め、優しさと柔和さと謙遜をもって、メディアに惑わされず、平和で控えめな生活をし、与えられたもの以上に求めずに生きること、これ以上に重要なことがあるでしょうか！こうしたあり方はまた、他者との関係において、節度ある開かれた態度に貫かれた、透明さ、高い倫理観、良きことに向けられる連帯した心が求められます。しかしながら、もしあなたがたがこの世界の物質や富に固執し、そこに自分たちの安全性を置くのであれば、主ご自身が、あなた方をこの世界へ遣わされているカリスマからはじまって、聖フランシスコがあなたがたを招いたはずの「より小さくあること」と「貧しくあること」の会の遺産をも、あなたがたから剥ぎ取ってしまわれるでしょう。みずからの意志で「貧しくあること」「小さくあること」を選ぶか、これらの遺産をすべて剥ぎ取られて終わるか、選ぶのは、あなたがた自身です。

聖霊は、奉献生活の霊的指導者です。聖霊にその道を明け渡せばそれだけ、教会とこの世界における私たちの相互関係と宣教を導いてくださいます。もし奉献生活者である兄弟たちが聖霊にすべてを委ね、その導きに従おうとするならば、彼らは、聖霊に導かれた兄弟的共同体の驚くべき神秘を見出し、他の兄弟への奉仕への靈感に満たされ、教会とこの世界における自分たちの預言的な存在の力強に気づいていくでしょう。また聖霊の光と力強さは、あなたがたの眼前に立ちはだかる闘い、特により小さい兄弟たちの数的な減少、高齢化、召命の減少に立ち向かう勇気を与えてくれるでしょう。これは確かに、一つの「闘い」と言えます。そして私はあなたがたに言いたいのです。神の民は、あなたがたを愛しています。クワラチーノ枢機卿が以前、私に次のようなことを言ってくれました。「私たちの街には少なからず聖職者嫌いの人々がいて、司祭が通ると「カラスだ」と言います。アルゼンチンで司祭は時にこう呼ばれます。人々は司祭をからかいます。まあ、そんなにひどい言い方ではないのですが、何か似たようなことを司祭に言うのです。しかし、絶対に、絶対に、絶対に、（クワラチーノ枢機卿はこう言いました）こんな言葉は、より小さい兄弟たちの修道服には、絶対に、言わないのです」。何故でしょう。あなたがたは神の民の中で、「より小さくあること」「兄弟であること」「柔和であること」「謙遜であること」「貧しくあること」の正しさを、正統に相続しているからです。私は皆さんに願います。どうかこれらの遺産を守ってください！これらの遺産を失わないでください！神の民は、あなたがたが大好きなのです。皆さんを愛しているのです。

あなたがたの道には、司牧者への愛情と称賛に加え、小さき兄弟たちに対するこうした良き人々の力強い励ましがあります。

私は、小さき兄弟会を、無原罪の聖母の御保護の下に委ねます。また私の祝福も皆さんの上にありますように。

最後に、どうか、私のために祈ることも忘れないでください。わたしにはあなた方の祈りが必要です！



感謝を込めて
教皇フランシスコ

2015年アシジ総集会文書

2015年11月1日
フランシスコ会日本管区
東京都港区六本木 4-2-39
聖ヨゼフ修道院